



令和8年度 東京都北区立王子桜中学校

令和8年5月 第2号

校長 阿久津 光生

〒114-0002

東京都北区王子 2-7-1

Tel 03-5902-3155

王子桜だより

共生の精神に満ち、国際的視野に立ち、大きな夢の実現のために限りなく向上に努める人を育てる。

教育目標 自主 創造 飛翔

《令和8年度 始業式を行いました！》

4月6日（月）始業式を行いました。まず着任された先生を紹介しました。次に校長講話では、「なりたい自分を見つけること」「進級にあたり、新たな気持ちで自分の生活をリセットするチャンスでもあること」を話し、その後、2年生、3年生の学年の先生方を発表しました。最後に田中生徒会長から大変立派なお話をいただきました。始業式開始前には、吹奏楽部の3年生が校歌の指導を自主的には行なっていて、とても素晴らしかったです。2年生は、中堅学年として、3年生は最上級生としての自覚をしっかりとって始業式に挑む姿が大変立派で感心しました。



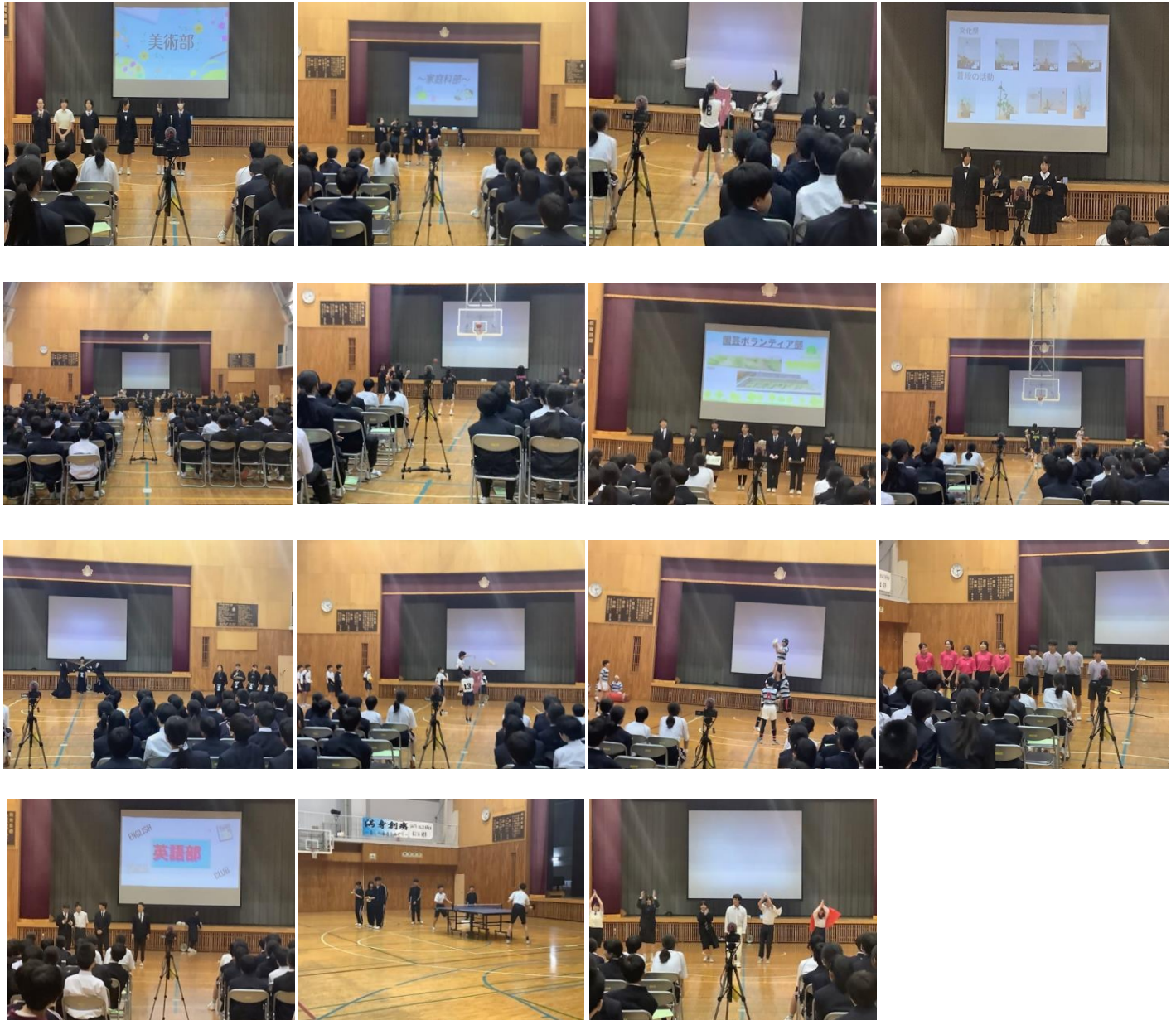
《第22回入学式を挙行いたしました！》

4月7日（金）午前10時より、150名の新入生を迎え、第22回入学式を無事挙行いたしました。阿久津は、式辞の中で「自分の想いや考えをしっかりと持つこと」、「自分も他人も大切にすること」、「人とつながること」、「挑戦すること」の4つのことを意識しながら、自分を大切に、仲間と己を磨き成長してほしいということを述べさせていただきました。麦屋PTA会長よりご祝辞を頂戴し、新入生誓いの言葉は、1年生の毛利さんが行いました。ご祝辞、誓いの言葉とも、とても素晴らしい内容で、格式高い式典となりました。そして何より新入生全員と在校生が、ともに思い出に残る立派な式典にしようとする雰囲気がとても感じられた素敵な式典となりました。最後に、教職員の紹介を行いました。



《1年生を歓迎する会（一迎会）が行われました！》

4月13日（月）5・6校時、体育館で、1年生を歓迎する会（一迎会）が行われました。新入生に心を込めた歓迎をおこない、新入生の不安や緊張を和らげるとともに2・3年生は上級生としての自覚を高めるために行います。田中生徒会長からの歓迎の言葉を受け、王子桜中の紹介が行われました。はじめに、生徒会・専門委員会の紹介。次に小澤先生から部活動についてお話をいただきました。そしていよいよ待ちに待った各部による部活動紹介が行われました。どの部活動も、2・3年生がいろいろな工夫をした説明やパフォーマンスをしてくれて素晴らしかったです。そして、吹奏楽部による素敵な歓迎の演奏がありました。最後に、新入生代表の佐藤（海）さんから立派なお礼の言葉がありました。2・3年生のみなさんは、先週からずっと、この一迎会のために自主的に準備に取り組んでくれていました。先輩たちが1年生を歓迎しようとする気持ちがとっても伝わって、1年生もそれに応えようと先輩たちの話や活動する姿を真剣に見ていてとっても素晴らしい会になりました。



《祝 3年生 宝利さんバスケ チャレンジカップ優秀選手賞おめでとうございます！》

祝 3年生 宝利さんバスケ チャレンジカップ優秀選手賞おめでとうございます。

3月28日、春休み中に王子桜中体育館で行われた男子バスケットボールチャレンジカップ(板橋区立志村三中・文京区立音羽中・練馬区立南が丘中・王子桜中)で、3年生の宝利さんが、優秀選手賞に選ばれました。本当におめでとうございます。



《第1回土曜授業を行いました！》

4月18日第1回土曜授業を行いました。1・2校時 授業参観を行い、その後保護者会を行いました。保護者会は、1年生は各教室、2年生はランチルーム、3年生は体育館で行いました。

全体会は、リモートで、各分掌主任の先生から話をさせていただきました。大変お忙しい中、1年生127名、2年生99名、3年生109名、計335名もの保護者の皆様にお越しいただきまして本当にありがとうございました。

また、園芸ボランティア部のみなさんが、屋上菜園で一生懸命育ててくれたネギなどの野菜を地域開放玄関前「マルシェ」での販売にご協力いただきまして本当にありがとうございました。販売した収益金は、年度末に、北とぴあ内にある「ボランティアぶらさ」に寄付をさせていただいております。「ボランティアぶらさ」では、「こども食堂」等の活動費用に当てられております。今後ともマルシェへのご協力もあわせてお願いいたします。



《祝 テニス女子団体 優秀おめでとうございます！》

4月19日（日）北区中学校ソフトテニス研修大会、団体戦が王子桜中学校庭で行われました。王子桜中女子テニス部は、見事に優秀!!おめでとうございます。大勢の保護者の皆様に応援に来ていただきまして本当にありがとうございます。応援には行けませんでした、来週の日曜日の個人戦には応援にうかがえるとします。個人戦も頑張ってください。



《離任式を行いました！》

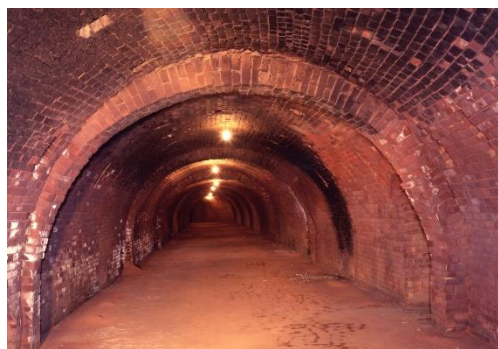
4月24日（金）6校時に離任式を行いました。昨年度、本校を離任された先生・事務主事のみなさんに大変お忙しい中お越しいただき、生徒のみなさんや教職員に心温まる暖かい言葉がけをしていただきました。そして、代表生徒から離任式された皆さまに、感謝を伝える言葉と花束が贈られました。ひと月ぶりにお会いできた喜びとお別れの悲しみ、これからもお元気で活躍してください、という様々な思いが込められた生徒のみなさんの感動的な言葉に感動しました。離任された皆さま、どうかいつまでもお元気で活躍くださいますことを心よりお祈り申し上げます。本日はご多用の中ありがとうございました。



深谷の煉瓦（れんが）と東京の繋がり

～渋沢栄一翁の故郷深谷の煉瓦工業の発展～

明治政府は欧米列強に並ぶため、首都東京に近代建築の官庁街をつくる必要性に迫られていました。当時の近代建築は煉瓦造りが主で、官庁街の近代化のためには大量の煉瓦が必要となりました。そのため、政府は機械式のレンガ工場の設立を経済界の重鎮であった渋沢栄一翁らに要請しました。明治政府の要請を受けた渋沢栄一翁は、故郷深谷（埼玉県深谷市）を候補地に考えました。もともと深谷は江戸時代のころより、利根川の運んだ良質の粘土を焼いて瓦を焼いていました。日本建築の屋根等に使用する瓦（かわら）から西洋建築に欠かせない煉瓦（れんが）の製造に切り替えることを積極的に推し進めたのです。この深谷の地で操業を開始した際、周辺の農地から煉瓦の原料となる良質な粘土を無償で集めました。粘土を採取した跡地は、水田とし、会社の負担で用水路を整備しました。これにより、農業生産力を維持・向上させつつ、煉瓦工業も発展させることができたのです。こうして、深谷に 1887 年に日本で最初の大規模機械式レンガ工場をつくり、日本煉瓦製造会社（後の日本煉瓦製造株式会社）を設立したのです。工場建設にあたって、ドイツ人レンガ技師のチーゼが雇われ、設計にあたりました。工場には、当時最新のホフマン式輪窯（わがま）が取り入れられ、煉瓦（れんが）製造のための機械がドイツから輸入されました。1895 年、この工場で生産されたレンガを輸送するため、工場から深谷駅までの 4 km あまりに日本初の会社専用の鉄道引き込み線も敷設されました。現在、ホフマン輪窯（わがま）6 号窯、旧事務所、旧変電室等が国の重要文化財に指定されています。現在は、市に寄贈され保存されています。こうして生産されたレンガは、明治から大正期の代表的なレンガ建築である東京駅や法務省旧本館・日本銀行・旧東京裁判所・旧東京商業会議所・赤坂離宮・旧警視庁・旧三菱第 2 号館・東京大学などに使われました。しかし、時代が進み、レンガから鉄筋コンクリートへ建築の主流が代わっていくなかで、この工場も 2006 年に約 120 年間の歴史に幕をおろし廃業しました。



左 ホフマン輪窯(わがま)6号窯 中 旧事務所 右 旧変電室

【提供 深谷市深活】

【東京駅の赤煉瓦】

東京駅丸の内駅舎の躯体用煉瓦約 833 万個は深谷の日本煉瓦製造株式会社上敷免工場製です。設計者は、東京駅をはじめ日本銀行本店など、日本を代表する名建築を手掛けたことで知られる辰野金吾です。



東京駅は新橋～上野間に中央停車場を置くことで計画されました。鉄骨を煉瓦の壁の中に埋め込んだ鉄骨煉瓦造で、構造材としての躯体用煉瓦の他に、外装用には化粧煉瓦が使用されました。6年9ヶ月の工期を経て1914年（大正3）12月に竣工した際、中央停車場は「東京駅」と命名されました。1923（大正12）年の関東大震災では無傷でしたが、1945年（昭和20）5月25日の空襲により大きな被害を受け、その後の改修工事で2階建てとなりました。2003（平成15）年に国指定重要文化財となった後、保存・復原工事により、2012（平成24）年10月、「我が国煉瓦建築の集大成」といわれた地上3階建て、横335mの駅舎は、開業当時の姿に戻りました。新一万円札には渋沢栄一の肖像と東京駅丸の内駅舎が採用され、丸の内の歴史に一ページを加えます。

【東京駅中に開業した東京ステーションホテル】



東京ステーションホテルが誕生したのは東京駅開業から1年後の1915年（大正4年）のことでした。その背景には、当時東京の宿泊施設が少なくホテル建設が急務と言われながら、当時の経済情勢により東京駅中のホテル建設計画が幾度となく揺れ動いていた経緯がありましたが、東京駅開業から1年後の1915年（大正4年）11月2日、東京ステーションホテルは壮麗な東京駅の中にその扉を開きました。国内外の賓客様々な人が集い、物語が生まれる東京駅。その中にある東京ステーションホテルには文豪達にまつわる多くのエピソードが存在します。川端康成は1956年に一か月ほど滞在し、小説『女であること』を執筆。同作は後に原節子主演で映画化され、しばらく映画に使われた客室の予約が殺到しました。江戸川乱歩は推理小説

東京ステーションホテルの平岩様のご厚意で、生徒会役員のみなさんをVIPルームにも案内していただきました。ありがとうございました。

『怪人二十面相』で名探偵明智小五郎と怪人の駆け引きをする場面を、客室を舞台にして描きました。戦後60年以上、2階建てのいわば仮姿だった東京駅丸の内駅舎が、2003年（平成15年）に国の重要文化財に指定され、その後2007年（平成19年）から始まった約5年間の保存・復原工事を経て100年前の壮麗な姿に甦りました。創建当時から残る部分は限りなく保存し、失われた部分を忠実に復原するという他に例のない壮大なプロジェクトでした。明治時代に計画され、大正・昭和・平成と受け継がれ、そして愛されてきたこのかけがえのないホテルと言えるのです。

【法務省旧本館】

明治政府の官庁集中計画の一環でドイツから招かれた建築家ヘルマン・エンデとヴィルヘルム・ベックマンの設計で1895（明治28）年完成の赤レンガと白い石材によるネオ・バロック様式の庁舎です。戦災で大きな被害を受けましたが、1995



（平成7）年当初の姿に復原されました。赤レンガ棟と呼ばれるこの建物では、かつて司法大臣が執務をとっていた部屋が法務史料展示室として、一般開放されています。建物内部はもとより昔の登記簿、明治期の刑法典編纂の史料、刑事事件に関する書類などが展示してあります。

【帝国ホテル】

明治維新後、外国要人の来日も急増し、首都・東京にそれにふさわしい設備と規模を有するホテルがなかったことから、外務卿井上馨が渋沢栄一、大倉喜八郎、益田孝らに相談しました。発起人のひとりである渋沢栄一は、ホテルは一国の経済にも関係する重要なもので、外国のお客を接待して満足を与えるようにしなければならないと述べていました。こうして1890年、近代国家を目指した日本の「迎賓館」の役割を担って帝国ホテルが誕生しました。帝国ホテルは、欧化政策の一貫として毎夜舞踏会が開かれてきた鹿鳴館の隣、現在の東京都千代田区内幸町1丁目に建設されました。開業当初の陣容は、理事長が渋沢栄一翁、理事が大倉喜八郎でした。敷地は、本館が600坪余、平屋、附属家部分を加え食堂のほか踏舞室（奏楽室）、談話室、喫煙室、転球室（玉突き場）、新聞縦覧所などを備え、60もの客室がありました。1893（明治26）年10月には株式会社に改組。栄一翁は取締役会長に就任しました。1923（大正12）年9月1日、新館落成披露の準備中に関東大震災が発生。新館は設計の卓抜さと熱源を電気に統一していたことに助けられ、被害は軽微だったことから、被災者に向けて最大の援助を行いました。宿泊料を無料にし、食料も提供。各国の大使館や新聞社には事務所として客室を提供したのです。帝国ホテルは、わが国の近代化への歩みと同じくし、時代の困難さを共にしながら、明治、大正、昭和、平成、令和の5代にわたる135年を生き続けてきました。1世紀以上、一貫して最高のホスピタリティを追い続け、接遇の実を積み重ねてきたことが世界中の人々から評価されている所以なのです。



帝国ホテル 左 渋沢栄一コルクアート 中 ロビー装花 右 渋沢栄一銅像 【協力 帝国ホテル】

帝国ホテルのみなさまには、豪華な館内をご案内いただきまして誠にありがとうございました。